関西自然保護機構会報 19(1)：45－47，1997

近畿地方から絶滅した植物　2 [1)]

村　田　　源 [2)]

EXTINCT PLANTS FROM KINKI DISTRICT, JAPAN. 2

Gen MURATA

ガシャモク　*Potamogeton lucens L. subsp. sinicus*（*Migo*）*Hara var. teganumensis Makino*

ガシャモクは本州（利根川水系の湖沼と琵琶湖）および中国の山東省（青島）にだけ知られていたヒルムシロ科の水草である（北村ほか1967，大井1975，山下1982）。現在では開発や水質の悪化によってほとんど絶滅に近く，少なくとも近畿地方では唯一の産地として知られていた琵琶湖から姿を消したと思われる。

この植物は最初手賀沼で発見され，*Potamogeton lucens var. teganumensis Makino*（植雑19：142，1905）と学名がつけられた。後に *P. teganumensis*（*Makino*）*Makino*（植雑 26：122，1912）とされたが，三木によって *P. dentatus Hagstr.*（*Bot. Notiser* 1908：101）と同じと考えられて以来，種のランクではこの方が早いので，日本ではこの学名が用いられている（三木，1937）。

日本水草図鑑（角野，1994）17頁には分布図がある。近畿地方の点は滋賀県大津市堅田（絶滅）である。北九州にも点が打ってあるが，筆者はまだ確認していない。

ヨーロッパに分布する *P. lucens L.* とガシャモクとは極めてよく似ている。この両者を種内の変異群と位置付けるか，それぞれを別種と考えるかは，分類学上今後の重要な課題である。

中国の山東省青島で採集された標本（三木，1940. 8. 24）は京大（KYO）にあり，検討したところ葉縁に微歯があるところまでガシャモクと同じである。原は*P. sinicus Migo* の *type* や雲南の資料などを検討し，ヨーロッパの *P. lucens L.* に比べると，東亜のものはやや小形で果実が長さ 2－3 mm である点をのぞけば互によく似ているので，その亜種とし，*subsp. sinicus*（*Migo*）*Hara* とする見解を述べ，更に多くの資料で変異をしらべる必要を強調している（原，1994）。

中国高等植物図鑑第 5 冊（中国科学院1976）や中国植物誌第 8 巻（Y. Guo & Q. Li，1992）では中国産のものは *P. lucens L.* としてあつかい，山東のものも区別していない。ここでは日本のガシャモクとの対比もされていない。

このように分類学上多くの問題をかかえつつ，人間活動による環境の変化によって，その生育地から植物が絶滅して行くことはまことに残念である。

山城水草誌（三木，1937）は堅田の資料でくわしい解剖図が描かれている。同書は入手し難い文献である上に，現地ではすでに植物が消えてしまっているので，ここにその図を再録する（図 3）。

なおガシャモクを *P. lucens* の変種として取り扱う場合は *var. teganumensis Makino* を使用するのが正しく，日本水草図鑑（角野，1994）に出ている *P. lucens var. dentatus*（*Hagstr.*）*Hara*

1）関西自然保護機構業績　第 188 号

2）〒615 京都市西京区松尾大利町 20－55

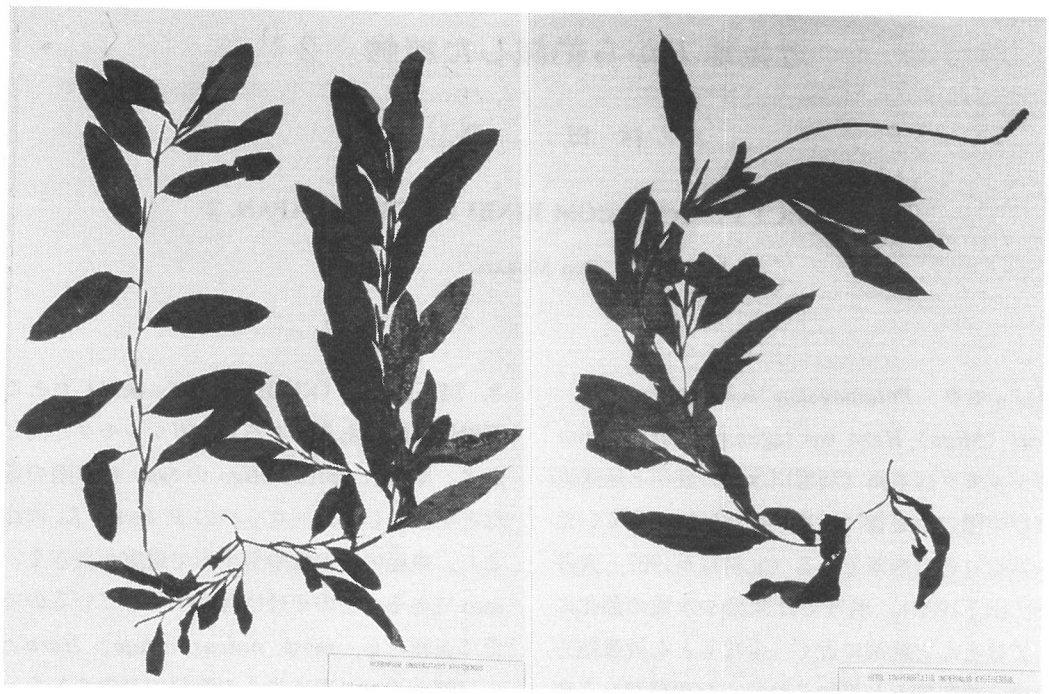


図2　ガシャモク *Potamogeton lucens L. var. tagenumensis Makino.*
左．若い植物体　　右．花穂をつけた枝
滋賀県堅田町，1928年8月9日　北村四郎採集の標本．
京都大学理学部（KYO）にて村田撮影．

は発表されておらず，この組かえは国際植物命名規約第11条にも違反する。

引用文献

大井次三郎．1975．日本植物誌顕花篇（改訂増補新版）56pl.＋1582pp．至文堂，東京．

角野康郎．1994．日本水草図鑑Ⅰ－Ⅷ＋179．文一総合出版，東京．

北村四郎・村田　源・小山鉄夫．1964．原色日本植物図鑑草本編Ⅲ単子葉類108pl.＋464pp．保育社，大阪．

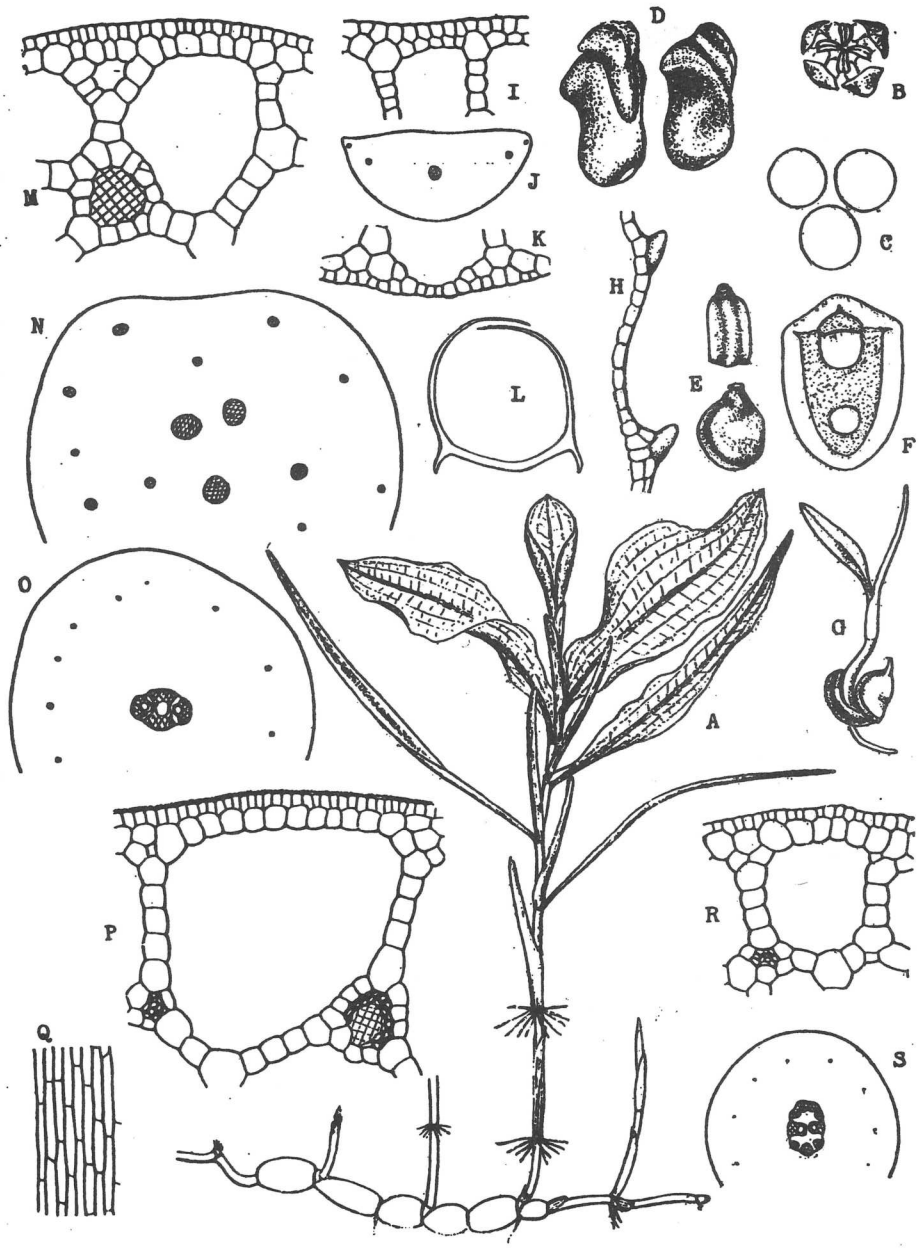
Guo, Y. & Q. Li. 1992. 中国植物誌 8：57－60, pl. 21.

中国科学院北京植物研究所（編），1976．中国高等植物図鑑Ⅴ．1148pp．科学出版社，北京．

原　　寛．1985．東亜植物註解17．植物研究雑誌 60：230－238.

三木　茂．1937．山城水草誌．京都府史跡名勝天然記然物調査報告書第18冊 1－127＋Ⅰ－Ⅳ．京都府．

山下貴司．1982．「佐竹ほか編，日本の野生植物Ⅱ」10－12．平凡社，東京．



ガシヤモク (*Potamogeton dentatus* HAGST.) (琵琶湖堅田産)
A 冬芽よりの發生 ×⅔. B 花 ×4. C 花粉 ×333. D 雌蕊 ×20. E-F 果實: E 全形 ×4. F 横斷面 ×10. G 芽生 ×4. H 葉鞘 ×100. I-K 葉柄横斷面: J ×20, I 及K ×100. L 托葉 ×10. M-N 花梗横斷面: N ×20, M ×100. O-P 莖の横斷面: O ×20, P ×100. Q 莖の表皮 ×100. R-S 地下莖の横斷面: R ×100, S ×20.

図 3 堅田産の資料で三木によって画かれ，山城水草誌23頁に掲載された
ガシャモクの解剖図.